

<「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編-3>

対象(時間)：中学・高校生の親(120分程度)

ほどよい距離感って？ ～子どもの自立と親の自立～

【ねらい】子どもの自立を適切に支援できるような、親の接し方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、付箋、模造紙、フェルトペン(裏写りしないもの)

時間	アクティビティの展開例	留意点	備考
：	○名札付け(来た順に)	○全員が名札をつける。(ニックネーム可)	※スケジュールを板書しておく。
：	○ファシリテーター(学習支援者) 自己紹介、主旨・ルール等説明	○和やかな雰囲気づくりに配慮する。 ○写真を撮る場合は、予め了解を取る。(肖像権)	・机は講義形式
：	アイスブレイク(雰囲気づくり) 「似たもの同士に分かれましょう。」 ①簡単な質問をして「はい」「いいえ」でグループに分かれる。 ②それぞれのグループにインタビューを試みる。 ③グループごとに自己紹介をする。	○初対面の人同士の場合、自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 ○和やかな雰囲気づくりと、スムーズなグループづくりに配慮する。 →例)子どもは男子の方がよい。 子どもが自分そっくりだと感じる。 →例)男子がよいのはなぜですか。 どんなところが、自分そっくりだと感じますか。 →5～6名のグループに編成する。 (この間にワークシートを配付する。)	・机を撤去 ・グループ数に応じて、机を配置
：	<思い出しましょう>P2 ○乳幼児期・小学生期の「こんな子どもだった」「こんな子どもになってほしい」を記入し、次に「今こんな子どもだ」を記入する。	○小さかった子どもとの関わりを思い出してもらう。 ○自分の子どもに対する理想と現実を書き出してみ、自分の子どもに対する見方に気づききっかけにする。	
：	○書いたことをグループ内で発表し合う。	○三つの約束(発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守)、ただし、言いたくないことは発表しなくてもよい。(パス有り) ○子どもとの関わり方の多様性に気づき、グループでは多くの気づきになることを実感してもらう。	
：	<コラム/エピソードを読みましょう>P2,3 ○コラム/エピソードの読み上げ。 ○感想をグループで出し合う。	○子どもに真剣に向き合う親の姿勢について考えてみる。(子どもが大きくなり、手が離れるようになって、心と目は離さないことを実感してもらう。) ※コラム/エピソードは時間を見て取捨選択してもよい。	
：	<考えましょう、出し合ひましょう>P4 ○「今困っていること」を記入。 ○「親は思春期の子どもにどう関わればよいか」を記入し、グループで話し合い、模造紙にまとめる。 ○グループごとに発表	○日頃、子どもにどのような期待をし、どんな子育てをしてきたのかをふりかえる。 ○もっとも身近な大人として、親としての生き方についても考えてみる。 ○価値観の多様性に気づき、グループでは多くの気づきになることを実感してもらう。 ※理想とする大人像について、ランキングしてもよい。	
：	<学習を振り返りましょう>P4 ○ワークシートへの記入 ○ファシリテーターの話		
：	○終了・片付け ○アンケート記入	→参加者全員で行う。 →アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
〈メモ〉			